

art 諸橋近代美術館

開館 20 周年記念展 vol.2 四次元を探しに ダリから現代へ

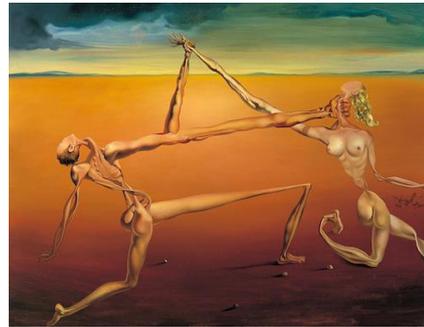
会期：7月13日(土)～11月24日(日)

本展はサルバドール・ダリ（1904-1989）生涯を通じて心に描き続けた革新的な芸術観が現代の美術家たちによって如何なるかたちで潜在的に継承されているかを垣間見ようとするものです。展覧会のタイトルとなった「四次元を探しに」は、実はダリが晩年に描いた同名の作品から借用したものです。

若き日のダリは、パリに出てアンドレ・ブルトンを首謀者とするシュルレアリスム運動に参加し、その代表的な画家として認識されながらも脱退を余儀なくされたのちに、第二次世界大戦が勃発しました。終戦とともに、近代美術の中心はパリからニューヨークへと舞台を移します。ダリはそのアメリカにおいてシュルリアリストとして強烈な存在感を示し、一躍、世界的な評価を獲得しました。終戦を契機に、ダリは故郷スペインに戻りましたが、時間、空間、そして光や遺伝子などをテーマに不可視的領域を描くための絵画の実現に精力的に取り組みました。

生涯を通じてのダリ芸術の主要素として、偏執狂的＝批判的方法、多重的形象世界、不可視の領域、触覚知の領域などが挙げられます。晩年に向かうにつれてこれらの概念は益々、神秘主義的精神性を帯びて物質的次元を超越して行きました。本企画はこのようなダリの主要素が現代美術においていかに継承され、或いは変容したのかを探って見ようという試みです。

全体を4章に分け、第1章「偏執的心象風景」では、コラージュを得意とする伊藤桂司と異様な人物表現が際立つ柳澤貴彦と当館のダリ、デ・キリコの作品を展示します。第2章「多重的形象の世界」では多様な形象表現が際立つ佐藤美有の絵画、並びに、デザイナーでもある角田純による不思議な植物を描いた絵画と天然石を使っ



サルバドール・ダリ 《ダンス(ロックンロールの7つの芸術)》
1957年 油彩、カンヴァス
© Salvador Dali, Fundació Gala-Salvador Dali, JASPAR Tokyo,
2019 E3365

たオブジェとともに、ダリのブロンズ彫刻と版画作品を展示します。第3章「不可視的領域への眼差し」では、デュッセルドルフで画家ゲアハルト・リヒターに師事した渡辺えつこのデジタル画像に基づく遠近法を取り入れた油彩画。そして、同じくデュッセルドルフを拠点にパフォーマンスや立体表現など多面的表現活動を行う、トーステン・エベリングによるペーパー・オブジェとダリの人物画と彫刻を展示致します。第4章「神秘的波動を読む」は、日本の言葉(言霊)の持つ響きや一音多義性を掘り下げた江尻潔の詩の世界、それから、タカユキオバナの神秘的は小説とオブジェから成るメール・アート(郵便で配信する美術)とダリの絵画や版画。そして、麦わらを使って繊細な幾何学的オブジェを創作するサカキ・トモコの作品には当館のゴッホ《農婦》をともに展示致します。この他にも、ダリへのオマージュとして、HIZAKURIGE(本間雅樹)が作曲・演奏した八つの組曲による「二つの空室」がテトウアンの部屋と彫刻ホールに流れ、さらに、ダリのブロンズ彫刻と黒御影石を手彫りした長谷川さちの石彫作品6点とガラス作品1点が一緒に展示されています。最後に、今回特別に出品頂きました、「はじまりの美術館」のアル・ブリュット(「生き」の皆さま芸術)と訳され、一般的に障害をもつ方が才能を発揮した美術作品)の絵画12点が展示されております。

皆さまには、この機会に是非ともご来館頂き、ご鑑賞頂ければ美術館一同、誠に幸いに存じます。

副館長・学芸部長 鈴木尊志

公益財団法人 諸橋近代美術館 (電話 0241-37-1088)



伊藤桂司 《Dancer》
2009年

アクリル、ハウスペイント、カンヴァス



長谷川さち 《gray》
2008年
黒御影石

フランス革命記念日 2019年のパレード



4,299人の女性と男性が7月14日、パリのシャンゼリゼ通りを行進しました。航空機は67機、ヘリコプターは40機、バイクは196台、馬は237頭でした。しかしこれらの数字には、より象徴的な意味があります。というのも、これらの参加者を通して、すべての陸軍兵、海軍兵、空軍兵、フランスのために献身する、すべての女性と男性が、国民からたたえられたからです。

私のフランス語日記

2020, Jeux Olympiques

Il y a les matchs de base-ball et le softball dans la ville de Fukushima. Le français est la première langue utilisée dans les jeux olympiques. Il y a 21 ans, je suis allée voir les jeux olympiques à Nagano. J'étais très heureuse d'écouter du français. J'ai écouté l'annonce en français dans le Shinkansen (après les jeux olympiques, c'était fini). L'anglais, l'allemand, le russe, le néerlandais, étaient utilisés. Des langues différentes étaient parlées. L'ambiance des jeux olympiques est spéciale. J'attends impatiemment l'année prochaine!

Junko Sato

2020年 東京オリンピック

福島市でも野球とソフトボールの試合があります。オリンピックの第一言語はフランス語です。21年前、長野オリンピックを見に行きました。フランス語のアナウンスが聞けて嬉しかったです。新幹線のアナウンスにもフランス語がありました(終わってなくなっていました)。英語、ドイツ語、ロシア語、オランダ語、たくさんの言語が交わされていました。オリンピックだけの特別な雰囲気 来年が待ち遠しい!

会話教室受講生 佐藤淳子

次回は長谷川孝さん、お願いします!



art いわき市立美術館

パリ世紀末 ベル・エポックに咲いた華

「サラ・ベルナルの世界展 -ミュシャ、ラリック、ロートレックとともに-」

会 期 7月20日(土)～9月1日(日) ※毎週月曜休館(ただし、8/12(月)は開館)

開館時間 9:30～17:00 ※会期中の金曜日は20:00まで開館

観 覧 料 一般 800円、高・高専・大生 400円、小・中生 200円

在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本が後援しているので、招待券を若干、会員の方へいただけるのでご希望の方は事務局まで8月9日(金)までお申し出ください。

フランス料理を楽しむ会 (フランス料理教室を改称しました)

2019年度 後期日程のご案内 各コースとも受講生を募集中!

コース	月曜日コース (火曜日コースは月曜日コースに変更となりました)	水曜日コース
日 程	前期・後期各4回 後期 10/28、11/11 [*] 、2/未定、3/未定	前期・後期各4回 9/11有 後期 10/16、11/13、2/未定、3/未定
講 師	料理担当(3回) 中田 智之 (なか田 オーナーシェフ) 菓子担当(1回) 相良 栄二 (大玉ベース パティシエ)	(4回) 菅野 喜代治 (ミュゼ・ドゥ・カナール オーナーシェフ)
教 室	2コースとも、MAXふくしま4F A・O・Z (アオウゼ) 午前10時～	
	 <p>※月曜日コース 11月11日だけ会場都合により9時開始です。 ※時間厳守をお願いします。 ※2月、3月の会場予約は順次6ヶ月前手続きです。 ※エプロンとランチョンマットを各自持参して下さい。</p>	

福島日仏協会の年会費は5,000円ですが、家族の方は食材費だけで受講できます。

詳細については、事務局石堂 (☎090-7063-3453) まで



フランス語会話教室 後期は 10 月 5 日(土)開講 新受講生を募集中！

クラスは 6 クラス、あなたのレベルや希望に応じたクラスにいつでも入会できます。映画、音楽、旅行など、素敵なフランス文化が気軽に身につくフランス語教室です。国際経験豊富な若くて気さくなイザベル先生の授業はわかりやすいと好評です。年 30 回。場所は福島県林業会館 1F 会議室。ぜひ一度見学にお出かけください。

日程表	
Août 8月	3 17 24
Sept. 9月	14 21
Oct. 10月	5 12 26
Nov. 11月	2 16
Déc. 12月	7 14
Janvie 1月	11 18
Février 2月	1 8 22 29
Mars 3月	7 14

講座	時間	受講料
入門	10:00~11:00	78,000
上級	11:00~12:00	90,000
初級 1	12:00~13:00	78,000
初級 2	14:00~15:20	78,000
中級 1	15:20~16:40	78,000
準上級	16:40~18:00	82,000

入門(初心者)コースは
10月から後期分 39,000 円
(中、高生 34,000 円)で
60分を 15 回受講です。
10:00~11:00

(中、高生 68,000 円)

※ 4 回分納可

お申込み・お問合せ 事務局 石堂まで ☎090-7063-3453

久美子のお菓子歳時記～Jadore lesgateaux (6)

前回、バスク地方についてお伝えいたしました、バスク地方を代表するお菓子といえば、ガトーバスクがとても有名です。こちらはスペイン、フランスどちらのホテルでも必ず朝食のビュッフェに並んでいます。

アーモンドをいれたクッキー生地を厚めに伸ばし、この地方特産の小さなさくらんぼを挟みます。ジャムやカスタードクリームのタイプもあります。そして表面にローブリュー《バスクの十字架》と呼ばれる模様をつけたものが正式と言われます。クッキー生地ですから固めのほろっとした食感、日持ちのするお菓子です。



←こちらがローブリュー

そして今回、レシピをご紹介するのがバスクチーズケーキ～バスクで食べる機会はありませんでしたが、今、大変人気で作り方も簡単、暑い夏にも軽く頂ける一品です。



写真を見ていただければわかる通り、表面が真っ黒！ちょっと焦げ臭そうで？？？と感じる方が多い事と思われそうですが、数あるチーズケーキのなかでも秀越のビックリするおいしさです。

<Gâteau basque バスクチーズケーキ>

○材料(18cm 丸型 1 台分)

- ・クリームチーズ 300g ・卵 150g
- ・グラニュー糖 100g ・生クリーム 170g
- ・薄力粉 8g ・コーンスターチ 5g (合わせてふるう)
- ・レモン汁 大さじ 1

○作り方

1. オーブンを 230~250℃に予熱する。(高いけど恐れずに)クッキングペーパーを水に濡らし、くちやくちやにし、水気を飛ばした型に引き込む(簡単で楽しい引き方！)
2. クリームチーズを柔らかくして(つぶつぶがないように)次々材料を混ぜていく。きれいに混ざれば OK！フードプロセッサー等の利用が便利。
3. 型に 2 のケーキ生地を流し入れ、オーブンの上段に入れる。この時、入れた後の温度がポイント！必ず温度が 200℃ぐらいに下がるので、型を入れてからさらに 230℃まで温度を上げ、20~23 分ぐらい焼く。焦げくさい匂いがしてきても大丈夫！
4. 表面は真っ黒、中はぷるぷる。この状態でオーブンから出し粗熱が取れたら冷蔵庫で、できたら一晩冷やす。

表面がキャラメリゼされ香ばしく、生地は驚くほどなめらかなで口の中でとろけます。

温度が低く焼きすぎるとふつうのチーズケーキになってしまいます。火の入れ方が命！

オーブンによっても違いますのでお試しくださいます。(私は電気オーブンを使用です)

(料理教室受講生 本田久美子)



第13回“音のまなざし”～響きを紡いで～ ブラームスはお好き？ vol.2 室内楽の夕べ

- 日時 9月30日(月) 19:00開演 ■会場 福島テレサFTホール
- チケット 一般3,000円 高校生以下1,000円 全席自由
- 出演 金子平(クラリネット)、宮坂拓志(チェロ)、富山律子(ピアノ)

「皆様は『ブラームスはお好き？』…でしょうか。私はブラームスの世界が大好きです。毎年コンサートに足をお運びくださる会員の皆様に感謝申し上げます。昨年のブラームスの室内楽プログラムでは大変ご好評をいただき、今年もオールブラームスのプログラムで、クラリネットの金子平さん(読売日本交響楽団首席クラリネット奏者)と宮坂拓志さん(NHK交響楽団チェロ奏者)をお招きして企画いたしました。お聴きいただけましたら幸いです。」
富山律子(会員)

富山律子さんは東京・福島を主に演奏活動をしているピアニストです。桜の聖母高校から桐朋学園大学音楽学部へ。同大学院大学修士課程修了後、オーストリア・ウィーンに留学。2007年ショパン国際ピアノコンクール入賞、国立モスクワ音楽院修了後、2008年横浜国際ピアノコンクールで特別賞(崎陽軒賞)の受賞歴があります。福島では毎年演奏家を招き一緒に室内楽演奏会を開催されています。

飯館村復興支援コンサートで俳人黛まどかさんの心を寄せる思いに触れて

5月18日(日)に開催された「余白の旅～俳句とピアノが出会うスペシャルコンサート」に出かけた。シャトルバスが満席のためマイカーで向かったが、会場を相馬方面の道路沿いと勘違いして10分程度遅刻して飯館村交流センター「ふれ愛館」に到着した。

受付の男性が親切で、ピアノ演奏の区切りのついた合間に椅子を会場内に置いてくれ着席出来た。俳人黛まどかさんが説明中で、壇上スクリーンに映しだされている句の花の色と似合うぼたん俳句数句に心を惹かれた。花の映像と黛さんの流麗なやまと文字がマッチして、耳と目で感じる俳句の華麗な一面に驚きを覚えて着席間もないにも関わらず、気分が高揚した。モナコ生まれのピアニストディリュカさんの演奏も熱が入り、ショパンの夜想曲もクラシックに縁遠い私の心に響いた。ホール天井の板仕様は地元木材を使い地域活性に一役買っている建物だなと思った。周りの席を伺うと、200席と聞いていた会場内の人数は250席超えと思われるが寂として私語なく聴衆は説明と演奏に聴き入っている。既に与謝蕪村の俳句の紹介と解説は済んでいて残念。

次に、黛さんが震災後に被災地から集めた俳句が披露された。小学生が詠んだと思われる切ない句、年配者が詠んだ現状打開に個人ではどうしようもなく悩んでいる句、などが飯館村の風景を織り込んで表現されていて、黛さん自身感動したこと、今後も復興に心を寄せていきたい気持ちが強まっていること、どんなに自然に打ちのめされても、人間は自然を愛でることを忘れない。震災直後から人々は俳句を作り生きる喜びを感じ、それを



5/20 福島民報
掲載写真

黛まどか事務所及び
福島民報社の了解を
得ています。

読んだ人を励まし、俳句から力をもたらしていると。岩手・宮城・福島の県民の方の震災の悲惨な体験を詠んだ俳句も紹介された。最後に、県おかあさん合唱団の飯館村メンバー7人が壇上に上がり「故郷」を、黛さんと来場者と一緒に合唱した。心あたたまるひとときだった。イベント前は美人の俳人黛まどかの印象しかなかった私だが、飯館村のおかあさん達にかける言葉のやさしさと、合唱団のカーネギーホール(ニューヨーク)出演に骨折り、尽力したと思われる話しぶりから、人間としての魅力を感じた。俳人としての才能とピアニストディリュカさんとの信頼の厚い国際的交流人脈、弱者に思いを寄せる人柄に感銘を受けた。帰路には道の駅で村の企業で生産の「ソーセージ」を買い少額ではあるが飯館村復興を応援する気持ちを託した。

黛まどかさん披露の一句『まんかいのさくらがみれてうれしいな』岩手県山田町小学5年の少年がパッと詠んだ句の評は「津波の後に火災有り、命をつなぎようやく迎えた春です。桜は少年であり、少年が桜でもあります。万葉の時代から続く文化が、被災地でも引き継がれていると当時感動し、今日はその中から一句をご紹介します。」
石堂信也(会員)

